一般演題（口演）5

家族支援

座長：住吉　智子（新潟大学　大学院保健学研究科）
伊川　泰広（金沢医科大学　小児科）

O5-029

親のがん闘病から死別後の子どもの体験

涌水　理恵[1)]、並木瑠理江[2)]

[1)]筑波大学　医学医療系　発達支援看護学　小児・発達看護学、[2)]東京歯科大学市川総合病院

本研究は、親のがん闘病から死別後の子どもの体験を明らかにすることを目的とし、子どもを含めた家族全体への有効な支援について探索的に検討した。がんで親と死別した年齢が７歳以上18歳未満で、死別から２年以上経過した12歳以上の対象13名に、フェイスシートとインタビューガイドをもちいて個別に60～90分程度の半構造化インタビューを行った。インタビュー中、思い出して流涙される場面や答えにくそうな場面では、対象の負担をじゅうぶんに考慮し、語りの存続を強制することの無いよう心掛けた。得られた語りから逐語録を作成しKrippendorff,K.（1989）の内容分析を行った。分析内容の正確性を確保するため、全対象に内容妥当性の確認を行った。本研究は筑波大学医の倫理委員会の承認を得て実施した。結果、以下の５つの時期ごとの子どもの体験が示された。1.親の病気が分かった時期に子もは【親の病気に関する情報を求めた】り、【親の病状を察した】り、実際に【病状説明を受けた】体験をしていた。2.闘病中の親と面会をしていた時期に子どもは【親とのつながりを求めた】り、病棟という特殊な環境の中で家族と共に時間を過ごしながら【感覚や空間で捉えた情報に頼った】り、【医療者の関わりによって心境に変化があった】体験をしていた。3.自宅で家族と過ごした時期には【家族同士の助け合いが必要だった】、【家族との特別な出来事が記憶に残った】、【感情を抑圧したことを後悔した】、【相談の場が必要だった】、【家族以外との関わりが希薄だった】という体験にもとづく思いを有しており、4.死別の時期には【死別時に関わりがあった】対象も【最期の時はそばに居たかった】と語った対象が混在したが【衝撃や動揺や悲しみが大きかった】、【死に関して強い印象を有した】体験をしていた。5.その後の日常生活では【（死別した親の）病気についての無知や自己の行動を後悔した】り【誰にも相談できず、心身が不安定になったり敏感になったりした】りしながら、【家族の存在に支えられた】り【周囲の大人や友達の関わりに支えられた】りして、【死別した親を心に留めて日常生活を送った】体験が語られた。【相談の場や情報は欲しいが、他人へ話す抵抗感や煩わしさもあった】【元の生活に戻るための時間と行動が必要だった】ことが示され、私たち保健医療福祉関係者は当該児らの体験をまずは知り、ニードをとらえながら伴走する体制が求められる。

O5-030

コロナ禍を契機とした病児保育施設数の変化について：令和1年度と3年度の病児保育施設数の類型別・地方別比較

江原　　朗

広島国際大学　健康科学部　医療経営学科

【背景】微熱などの症状を有する乳幼児の登園を多くの保育所は認めていない．このため，病児保育施設が全国的に整備されてきた．令和２年初頭より，我が国においても全国的な新型コロナウイルス感染症の大流行（コロナ禍）が始まり，令和２年２月末には，文部科学省から小学校，中学校，高等学校や特別支援学校などの臨時休校が指示されるにいたった．保育所については，一斉休園は求められなかったが，コロナ禍を契機に病児保育の利用が激減した．利用者数が激減すれば，経営の悪化から施設の休止や廃止となる可能性もある．そこで，病児保育施設数をコロナ禍前と禍中で比較することにした．

【方法】市区町村が財政的補助を行った全国の保育施設のリストは，こども家庭庁から提供を受けた．令和１年度をコロナ禍前，令和３年度をコロナ禍中として，病児保育施設数を比較した．

施設名の重複や欠失がある施設をリストから除去し，令和１・３年度の病児保育施設の突合を行った．なお，２つのリストにおいて施設名が完全に一致しない場合でも，同じ市区町村内の施設の固有名詞がほぼ一致した場合には同一であるとみなした．さらに，令和１年度にのみ存在した施設はコロナ禍で休止・廃止された施設，令和３年度にのみ存在した施設は新規参入した施設とみなした．

【結果】重複･欠失を除去した全国の病児保育施設数は，令和１年度1743，令和３年度1816であった．令和１・３年度ともに存在した施設が1646，令和１年度のみ存在した施設が97，令和３年度のみ存在した施設が170であった．休止廃止率は5.6％（97/（1646+97）），新規参入率は10.3％（170/1646）であった．

病児対応型保育施設は，令和１・３年度ともに存在した施設1099，令和１年度のみ存在した施設43，令和３年度のみ存在した施設122であった．休止廃止率は3.8％（43/（1099+43）），新規参入率は11.1％（122/1099）であった．

病後児対応型保育施設は，令和１・３年度ともに存在した施設547，令和１年度のみ存在した施設54，令和３年度のみ存在した施設48であった．休止廃止率は9.0％（54/（547+54）），新規参入率は8.8％（48/547）であった．

また，地方別に解析すると，休止廃止された施設（令和１年度のみ存在）よりも新規参入した施設（令和３年度のみ存在）の方がすべての地方で多かった．

【結論】コロナ禍を契機に休止廃止となる病児保育施設はあったものの，それを上回る新規参入が認められた．

Presented by Medical*Online